

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（11月定例会）会議録
開催日時	平成24年11月16日（金曜日）14時00分から16時20分まで
開催場所	保谷庁舎3階 会議室
出席者	委員：須永議長、齋藤副議長、内田委員、川崎委員、倉島委員、白木委員、濱崎委員、原委員、矢野委員 （欠席）稲葉委員、操野委員、本領委員、山田委員 事務局：磯崎社会教育課長、神田主査
議題	(1) 社会教育施策の今後のあり方について (2) 報告 その他 1. 関東甲信越静社会教育研究大会（10月24日～26日）の報告 2. 都市社連協第4ブロック研修会（11月1日）の報告 3. 教育計画策定懇談会（11月13日）の報告 4. 社連協交流大会（12月1日）の参加について
配布資料	1 全国社会教育研究大会（10月25・26日）参加報告 2 平成24年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会実施要項 3 西東京市市民意識調査報告書（抜粋）平成24年9月 ・早ね早おき朝ごはんリーフレット ・ニュースレター No.12
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
平成24年10月定例会議の会議録2ヶ所訂正後、承認する。	
<p>(1) 社会教育施策の今後のあり方について</p> <p>○議長： 今後の進め方について確認をしたい。</p> <p>事務局： 以前お示した検討作業スケジュールに添って検討を進め、現在レポートのまとめを基に議論をして頂いている。今回は「施策の方向性」について検討をしたので、11月、12月では「課題」について検討したい。12月から提言の骨子づくりの作業に入り、年明けに中間報告の素案をつくり、1月、2月で検討し、2月中に中間報告を提出する。その後、6月まで中間報告を深める作業を行い、提言を完成させたい。この間、必要に応じて臨時会を開催し、また、1月か2月に中間報告に向けた研修の機会を持ちたいと思う。次回研修会の内容について検討したいと思う。</p> <p>議長： 課題についての検討を今回も含め12月まで行い、次回は提言骨子をどうまとめるかの検討までできればと思う。その都度修正しつつ、概ねこのような流れで検討を進めていきたいと思うので、よろしく願いしたい。では、「議論のまとめ」に添って 課題について議論をしていきたいと思う。今後の社会教育施策展開の課題として、全体を俯瞰し調整・コーディネートをする部署が必要ということが出されている。</p> <p>○委員： 文化・スポーツ分野が市長部局に移されたが、なぜそうなったのか。また、組織も公</p>	

民館・図書館・社会教育課が並列になっているがどうしてなのだろうか。

○委員：

文化・スポーツ分野の権限を教育委員会から市長部局に委譲していく動きは、市長が文化・スポーツ行政をマネジメントしやすいということから出て来ていると思う。また、教育委員会そのものの不要論や見直しを唱える動きもあり、その流れの中では教育委員会制度の中に位置づく社会教育行政も影響を受けるだろう。提言をまとめるにあたっては、こういった動きも見ていく必要があるだろう。

○委員：

近隣市でも社会教育委員の名称や位置づけが変わってきている。全国的にもそういう流れになってきているようだ。

○委員：

西東京市でも教育長が不在の期間が長い。あまり長いと教育委員会は要らないのではないかという話が出てくるのではないだろうか。

○委員：

教育委員会の本質論からではなく、教育委員会を巡る現象論から不要論が議論されているように思う。

○委員：

今の仕組みが良くないから教育委員会をなくし、別のものにしていこうという考えだろう。

○委員：

教育委員会が無くなっても、社会教育の機能は必要な機能なのでなくならないと思う。

○委員：

教育委員会制度が無くなっても社会教育行政が無くなるわけではない。社会教育は未来永劫あるものだし、それを支える社会教育行政も、形を変えるかもしれないが残っていくだろう。しかし、今の教育委員会制度のあり方で考えると現状とずれていくことになるかもしれないので気を付ける必要はあるだろう。

○委員：

現実離れした提言にならないよう、現状を踏まえ、実現可能性のある内容にしたいと思う。

○委員：

公民館は市民の学習活動の拠点であり、図書館もレファレンスなどを行う教育的施設である。部屋を貸したり本を貸しているだけの施設ではないと思う。また、社会教育施設ということで並列的に社会教育課に並べて置くのはおかしいのではないだろうか。

○事務局：

公民館、図書館と社会教育課の関係で言えば、それぞれ独立して、行政である社会教

育課が社会教育推進のための環境醸成を行い、教育機関である公民館と図書館が具体的に教育の事業を展開していくことになる。しかし、現状の職員体制の中で、今後それぞれの機能を充実させていくためには、組織体制をどうしていくのかということになるだろう。

○委員：

公民館がなかったり、名前がちがう施設だったりというところも、公民館の機能がなわけではないと思う。形や組織にこだわってもしようがないのではないか。公民館、図書館、社会教育課の関係も組織の不備のためにうまく機能しないのか、分かれていても調整するスタッフがいれば機能するのか。今後の社会教育施策を進める上で欠けている機能や困っていることがわかれば、どういう組織体制が必要かも明確になると思う。

○委員：

社会教育を活性化させるためにどうしていったら良いのかということが重要な事だろう。

○委員：

図書館の効率化や委託化についても考えていく必要があるのではないだろうか

○委員：

先日、公民館の平和に関する市民企画講座に参加した。党派色のない市民レベルでいろんな意見を聴きながら平和について考えるヒントや視点を提供できるのが社会教育だと思う。60代、70代の参加者が多く、こういう場を支えているのがこの年齢層だということに驚いた。

○委員：

公民館に限らず、西東京市にそういった場があるということが大切だろう。

○委員：

地域に根差し本当の市民になるのは、会社を辞めた60歳を過ぎてからではないだろうか。そう考えると、そういった高齢者を社会教育の場に引っ張り出し、活性化していくことで大きなパワーになると思う。

○委員：

今の社会教育課の担当しているものの内容を深め、中身を濃くしていくことも一つの方法ではないか。例えば、文化財の保存や生涯学習関連を1本化してとりまとめるとか、そういう役割を社会教育課が行うことも考えられるだろう。公民館の職員も各館で事業を計画しているが、社会教育課が公民館活動をまとめて西東京市全体の事業として進めていく中心となることも考えられる。今の社会教育系の職員体制で、生涯学習という大きなものに取り組めるのか疑問で、中途半端になっている感じがする。今やっていることを全体のものにしていくというやり方もあると思う。

○委員：

市の方針が出され、それを実現するために課の組織作りもそうになっているが、機能と人員配置が合っていないのだろう。

○委員：

与えられ機能をやっていく中で、出来ていること出来ていないことを明らかにし、出来ていないことを進めるためには、人が必要なのか、組織変更が必要なのかを明確にしていく必要がある。

○委員：

今学校や地域の防災意識が高まっている。個々にはいろいろなことをやっているが、防災課などから、協力団体などの情報をもらうことで、より大きな事業になる。行政の手助けにより、民から始まった事業が大きく広がっていくことになるだろう。

○委員：

地域ではそれぞれに問題になっていることに取り組んでいる。学校や地域で防災教育を進められているが、ボランティアだけでは限界がくる。地域の中でつながっていくには行政の力がないと進まない。教育ということでは社会教育でもかかわっていく内容だろう。

○委員：

学校でも防災教育に取り組む必要が出て来ており、東小学校では、放課後子ども教室の事業で危機管理室の職員を呼んで防災関連の教室を予定している。

○委員：

図書館や公民館、郷土資料室などの公共施設を社会教育として連携して、運営していくことも提言に入れたい。横の連携はどうなっているのだろうか。公民館、図書館、社会教育課などでの話し合いがなされていないのか。

○委員：

地域生涯学習事業なども公民館と連携していけば、充実すると思うが、そういった連携する役割を社会教育課がやっていければいいと考えている。組織的には課ごとで進めることになっているが、そこだけの考えでやっていくということで良いのだろうか。市全体としてどうなのかといった調整が必要だろう。

○委員：

公民館同士で事業について話し合い、良い講座なら複数の公民館で実施するなどできないだろうか。

○委員：

市の事業について「多元的、多層的に対応する」と言われる。いろいろなことをやっているのは良いが、せめて一本化にして、一つに見せることをしたらどうか。何で繋いで、どう見せるかはいろいろあると思うが、例えば、市民大学のような形で絵を描いてみるとか。そういったものを描くのが社会教育課ではないだろうか

○委員：

文化・スポーツ分野など、市長部局にある事業には言及しにくいのではないか。

○委員：

いろいろな活動の結果が社会教育になると思う。文化・スポーツも社会教育だろう。

社会教育委員としては、バラバラになっているものを繋いでいくということは提言できると思う。

○議長：

次回また、引き続き「課題」について検討したいと思う。

(2) その他

1. 関東甲信越静社会教育研究大会（10月24日～26日）の報告

※原委員より配布資料1「全国社会教育研究大会（10月25日・26日）参加報告」に添って、記念講演及び第3分科会について報告。

※矢野委員より第2分科会、須永委員より第4分科会、齋藤委員より第5分科会について報告。

- ・全国的に見ると、社会教育委員の会議が年1回しか開催されないところもあるようで、東京の社会教育委員の会議は西東京市も含め活発に活動しているということがわかった。
- ・社会教育委員としての活動の話題にあまり触れられた議論がなく残念だった。

2. 都市社連協第4ブロック研修会（11月1日）の報告

※参加した委員より報告・感想。

- ・東日本大震災の講演が良かった。
- ・西東京市でも各学校ごとに避難場所の設置委員会発足の動きがある。今回の研修会での話が聞けたら良いと思った。

3. 教育計画策定懇談会（11月13日）の報告

○議長：

教育に関するアンケート調査について、途中までの集計結果ということで、数値結果等変わるかもしれないが、報告があった。市民対象の調査結果を見てみると、学習活動の分野としては、まちづくりや社会問題への関心が低いようだ。公民館は7割、図書館は5割弱の人が利用しておらず、ともに男性の40代・50代の利用率が低い傾向にある。まちづくりに関する活動は18パーセントであった。また、学校で教える重要なことについては、道徳心が63パーセント、マナーが35パーセントで、基礎的な学力は21パーセントという結果だった。また、この会議で出された要望として、今期計画の評価を行って次期計画を策定していただくよう部長に伝えた。

4. 社連協交流大会（12月1日）の参加について

○事務局：

交流大会の概要は、配布資料2「平成24年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会実施要項」のとおり。交流大会では社連協の表彰式もあり前任期委員の小川委員が表彰される予定である。マイクロバスの手配が出来たのでこもれびホール前に11時30分に集合していただきたい。

- ・日時 平成24年12月1日（土曜日）午後1時～4時15分
- ・場所 稲城市中央文化センターホール
- ・参加予定 須永委員、齋藤委員、川崎委員、操野委員、濱崎委員、倉島委員、矢野委員

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（11月定例会）は終了する。

※次回会議 平成24年12月21日（金曜日）午後2時から